

2022.6.6

S.プロジェクト 2022 ダイジェスト

キーワード：

イノベーション、クラフトマンシップの継承、環境への配慮。

デザイン製品とインテリアデザインのための装飾的・技術的ソリューションに特化した展示会である **S.Project (エス・プロジェクト)** は、インドアからアウトドア家具、壁装材から照明・音響ソリューション、ウェルネス製品からテキスタイルまで、様々な提案と共にサローネに帰ってきます。また、建築家マリオ・クチネッラがミラノサローネ 60 周年記念のためにキュレーションしたサステナビリティをテーマにした偉大なプロジェクトも **S.Project** で披露されます。

ロー、フィエラミラノのホール 13 と 15 において、14,051 m² に 116 が集結する **S.Project** は第 2 回目にして既にインテリアのデザインソリューションの国際的な基準となっています。ホール内ではミラノサローネ 60 周年を記念して、建築家マリオ・クチネッラが企画・監修した大規模なノーブランドのインスタレーション「**Design with Nature (自然に寄り添うデザイン)**」も展示され、環境維持への取り組みが紹介されます。

S.Project は、コンテキストのハイブリッド化、個々の製品のデザインから環境のデザインへの移行という、現代における最も重要な研究テーマに焦点を当てたいと考えています。最高レベルのインテリアが広く注目されているという経済的な確かさと、トータルコーディネイトされ、人を迎え入れ、居心地良い「巣のような空間」を作りたいという感情的な刺激は、この空間に特別なつながりを見出し、その根本的な存在意義となります。このように、**S.Project** では、インテリアの装飾装置を不可分の一体として提示し、**エコロジーへの責任と製品の美的価値**の両側面から研究を進めていることを証明しています。

<アウトドア>

アウトドアの美学はインドアの美学にシームレスに波及し、時にはこの器の伝達システムが逆転しているのを目の当たりにします。屋外の環境が内と外の境界を取り払い、その形、色、素材によって屋内に影響を与えるのです。

その証拠に、Pratic/プラティック (ホール 13 | B15 B19) の提案は、新製品「**Connect (コネクト)**」がバイオクライマティックのパーゴラの快適さとプライバシーにおいて、屋内と屋外の世界を融合させることを追求し、それに成功しています：鏡の壁で作られた空間は、周囲の風景や自然の美しさを倍増させ、常にその色や形を取り込み、一方で内部での体験には完全なプライバシーが保証されているのです。

Expormim/エクスポルミム (ホール 13 | C02 C06) は、認証材を使用した 3 つの屋外用の椅子を紹介します。どちらの環境にもよく合い、自然や森、花を身近に感じられる椅子です。



Lievore Altherr Molina (リエボレ/アツテール/モリーナ) デザインの「Lapala (ラバラ)」は、エレガントで地中海的、サステイナブルなデザインです。Manel Molinan (マネル・モリーナ) の「Blum (ブルム)」は、自然素材を好む方に向けた2種類の新バージョン(オリジナルはアルミニウム)、MUT Design の「Petale (ペタレ)」は、3種類の新しいバックレストコードの編み方を提案しています。

<キッチンとバスルーム>

より責任ある、より社会的な観点から、これらの空間の行動と儀式を刷新し、このホールでも、リビングや屋外への開放性とカスタマイズの可能性に注力しています。

ロドルフォ・ドルドーニが **Effe/エッフエ (ホール 13 | E11 E15)** のためにデザインした「**Cabanon (カバノン)**」は、フィンランドの原点に立ち返り、自然に囲まれた初の**屋外独立型サウナ**です。庭や緑地に設置する「**Garden (ガーデン)**」、テラスやロッジなど都会的な空間を演出する「**Terrace (テラス)**」の2タイプを開発し、現代の生活ニーズに応じています。

Antonio Lupi/アントニオ・ルーピ (ホール 13 | A07 B18) は、数年前からバスルームの先を見据えています。今回は、カルロ・コロンボがデザインした新しいモジュラーキャビネット「**Bemade (ビーメイド)**」を発表します。このワードローブは、無限のカスタマイズが可能で、住まいの壁に描くようなすっきりとしたカットによる厳格で洗練された表現によって家のあらゆる場所に収まるデザインとなっています。

<仕上げ>

金属、大理石、木材などの伝統的な素材に加え、最新世代のナノテクノロジーによる表面処理が登場し、豊かな仕上げと加工で新たな魅力を引き出しています。また、職人技と生産技術の復活、古い採石場と忘れられた木のエッセンスの復活、セラミックカバー、ラミネートとメラミンの研究などが行われています。今年はこれまで以上に、表面は自然を尊重しながら現代に適応するインパクトと驚きを生み出しています。

例えば、**ALPI/アルピ (Hall 13 | B01 B03)** は、強度と柔軟性に優れ、前面に塗装を施し、どんな表面にもすぐに貼り付けられるオールウッドパネル、「**ALPIready**」を発表しています。やオークなどの伝統的な木材から、レガシーコレクションの素晴らしいトロピカルエッセンスまで、29色で展開。17世紀から高級家具やオブジェの製作に使われてきた木材で、その集中した需要により木材不足の危機が懸念されましたが、ALPI社の森林再生取り組みによって、将来を脅かさずに持続可能な製品を提供し、再び入手可能にしました。ALPIreadyには、Raw Edges (ロー・エッジズ) や Ettore Sottsass (エットーレ・ソットサス) など著名デザイナーのサイン入りも展開しています。

Laminam/ラミナム (Hall 15 | A31 A33) の提案は、自然や、特に私たちの Terra (テッラ=大地)と視覚的な提案からインスピレーションを受けています。「**Terra di Pompei** (テッラ・ディ・ポンペイ)」は、ナポリの太陽で乾燥したマグマのエッセンスを集め、その熱で表面に亀裂やフリーズを刻み、そこから思いがけない暖色系のニュアンスを浮かび上がらせています。

「**Terra di Saturnia** (テッラ・ディ・サトゥルニア)」は、トープとグレーの色調の中で、温泉、泥、鉱物のある場所を彷彿させ、水が引いて柔らかい砂地が現れる動きを表面に表現、

「**Terra di Matera** (テッラ・ディ・マテラ)」は、この街の味わい、土地の明るさ、地中海特有の夜明けの色合い、そして夕暮れ時には空と溶け合うような色彩を表現しています。

<壁紙>

地球の色と形を想起させるものですが、植物柄は常に存在するものの、デザインは主に抽象的、幾何学的、最小から純粋なパターンとその建築やインダストリーの要素に焦点が当てられています。

Wall&Decò /ウォールデコ (Hall 15 | C24) の提案では、自然は、一方では抽象的で希薄なものにするレンズを通してフィルターをかけられ、他方では、大地と絡み合った暗い色調をベースとする洞窟をイメージしています。

一方、**Patricia Urquiola** (パトリシア・ウルキオラ) の **Jannelli&Volpi/ジャンネリ & ヴォルピ (ホール 13 | D10)** での初コレクションは、シュルレアリスムな日常への探求があります。日常の風景や道具が壁に飾られ、窓、静物画のようなテーブル、カーテン、本棚などのオブジェや、植物が植えられた温室のような庭園など、互いに対話する一連の部屋が展開されています。

<照明>

また、技術的、感情的になっていく**照明**は、新しいシナリオを切り開き、未来と伝統を結びつけることができる革新的な製品に変換されていくでしょう。

Artemide/アルテミデ (ホール 15 | C19 D22) が新しいテーブルランプとフロアランプで展開するBIGデザインの「**Stellar Nebula** (ステラ・ネビュラ)」シリーズは、職人技である吹きガラスの革新的な仕上げと技術により、工業生産と職人生産の価値、役割、限界を中心に据えて、工業的な独自性のある解決策を見だし、ガラスと光の相互作用を高めることを目的としています。

<家具>

家具の「**ル・フィル・ルージュ**」は、その自然な外観とサステイナブルな魂によって、自然と人工物の融合を解釈します。

Riva1920 (ホール 15 | E19 F18) のサイドボードとテーブル「**Vela** (ヴェーラ)」がその一例で、どちらも無垢材を使用しています。サイドボードは、扉と引き出しの前板を垂直に加工

することで幾何学的な効果を生み出し、引き出しは蟻継ぎで組み立てられているのが特徴です。テーブルは天板と脚の厚みが薄く、エッジが面取りされているため、軽快さとしなやかさが感じられることです。

Maruni/マルニ (Hall 13 | C12) は木の代名詞でもあり、**Cecilie Manz** (セシリエ・マンズ) のデザインによる「EN」シリーズを発表しています。EN とは、デンマーク語で「ひとつ」、日本語では「円」「つながり」「運命」を意味します。この新しいプロジェクトは、その円形という形状から、「一体感」を最もよく表現できる丸い木のテーブルと椅子を作りたい、という思いから生まれました。背もたれの曲線は古代ギリシャの椅子「*klismo*」を彷彿させ、脚部はリング構造で連続性を持たせ、柔らかさとトゲのある形状のバランスを保っています。

Nikari/ニカリ (Pad. 13 | C01 C05) でも木、日本の伝統、そしてこの場合はフィンランドの職人の伝統とシェーカースタイル (ミニマリズムの前身で、ジオ・ポンティ、カーア・クリント、ボルゲ・モーエンセンなどのデザイナーのインスピレーションとなったシンプルで機能的なアメリカのスタイル) が組み合わせられており、ほとんど同じ要素が新作の椅子、「**Akademia Armest** (アカデミア・アルメスト)」に見られます。同名の前作と比べアームレストにより快適さが増しているのが特徴的です。

Mattiazzi/マティアッツィ (ホール 13 | F12 F16) の Ronan & Erwan Bouroullec (ロナン & エルワン・ブルレック) デザイン「**Filo** (フィーロ)」は、木以外の自然素材であるロープを導入しています。Filo は非常に繊細なグラフィックを持つチェアで、横から見るとタイポグラフィの文字のように見えます。ファブリックコードの繰り返されるラインは、このグラフィックの存在感をさらに高め、人が座ると緩やかに歪み、このチェアに柔らかにパーソナルなフォルムを与えます。木材の無駄を省くために設計されたクリーンでパワフルな構造は、知的な接続と構造によって最大の強度を発揮します。

De Castelli/デ・カステリ (Pav.15 | D24 D26) の **Martinelli Venezia** (マルティネッリ・ヴェネチア) がデザインしたスツール「**Efesto** (エフェスト)」も過去の工程や技術、忘れ去られた手仕事を最新の技術で蘇らせたいという願いは同じです。今では忘れ去られた 19 世紀末の打楽器の技術を研究し、特殊な機械の助けを借りて、専門の職人でなければ不可能な複雑な形状を再現しています。**Efesto** は、真鍮の板を手作業で曲げ、成形し、ハンマーで叩いて作られる家庭用彫刻のような小さな金属製品で、三角形の断面と光沢のある鏡面仕上げが特徴で、しなやかな形状を強調しています。機械的な接合部はなく、真鍮本来の特性と目に見えないハンダ付けの組み合わせにより、洗練された機能的なオブジェに仕上がっています。

<インテリア小物>

最後に、**インテリア小物**はもはや空間の脇役でなく、モノそのものと一体となって、テイストや文化を表現する基本的な存在になっています。



ベルギーのブランド、**Atelier Vierkant/アトリエ・ヴィアカント (Pav.A15 | A21 B22)** は、職人の手によって無限の形と大きさを持つ土器の植木鉢を S.Project 出展します。エクストラホワイト、ホワイト/ベージュ、グレー/トルトラ、アンスラサイト/ブラック、ボルドー/レッドなど、天然酸化物から作られた、屋内外で使用できる色彩。それぞれがユニークで、それぞれのストーリーを持ち、プロジェクトに欠かせない重要な要素となっています。

S.Project は、単なるイベントではなく、企業が「相乗効果」を発揮するための新しい可能性を考える機会として、小売業、デザイナー、企業の連携を強化するためのビジネスプラットフォームとして、より効率的なネットワーキング環境を提供します。新しい空間デザインのコンセプトや革新的なソリューションを、この分野の専門家や国内外のバイヤーに紹介するための理想的な場所です。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it